

職員による自己評価

保護者による評価

実施：令和4年3月 回収7名

A環境面

1. 訓練室等スペース
71%確保されているとの評価だった。
2. 職員の配置数
85%が適切であるという評価だった。
3. 設備においてバリアフリー化の配慮
100%が適切であるという評価だった。

B業務改善

4. 業務改善を進めるための参画
71%が評価していた。
5. 保護者の意向を把握し業務改善につなげているか
85%の評価であった。
6. 自己評価結果の公開
100%が適切に公開しているという評価だった。
7. 外部評価について、
71%が外部からの評価を業務改善につなげていると評価している。
8. 研修の機会確保
86%が評価しており、研修により支援の質の向上を図っている評価を得た。

C適切な支援の提供

9. 客観的分析による個別支援計画の作成
100%が適切にできているとの評価だった。
10. 標準化されたアセスメントツールの使用
86%が使用できていると評価している。
11. 活動プログラムの立案
71%がチームで行うことが出来ていると評価している。
12. 活動プログラムの工夫
86%が固定化しないよう工夫していると評価している。
13. 課題設定に応じた支援内容
86%が出来ていると評価している。
14. 子どもの状況に応じた支援計画の作成
86%が出来ていると評価している。

実施：令和4年3月 回収49名

A環境面

1. 活動のスペース確保
・88%確保されているとの評価だが、10%の方はどちらともいえないという評価であった。
2. 職員の専門性・配置数
84%が適切であるという評価を得られた。
3. 設備

バリアフリー化の配慮がされているとの評価は84%であった。詳しくわからないが12%であった。

B児童への支援内容

4. 個別支援計画作成
86%は客観的に作成され分かりやすく説明されているという評価がある一方で、思わないが4%であった。これは、コロナ禍で面談がスムーズに行うことが難しい状況であったことが影響していると思われる。
5. 活動プログラムの工夫
88%工夫されているという評価であった。子の社会性が身につけてきていると感じるという記述があった。

C事業所からの情報発信

6. 利用者負担や支援内容の説明
86%丁寧な説明がなされたという評価であった。
7. 子どもの状況や発達課題での保護者との共通理解
92%できているという評価であった。
8. 保護者面談や育児相談の支援
子どもの困り事や相談にその都度臨機応変に対応しているとのお声をいただき、78%が適切に行われているという評価であった。一方で、どちらともいえない18%あった。
9. 保護者会など保護者同士の連携
61%の評価であり、詳しくわからないと答えた方が20%であった。

15. 支援開始前の打ち合わせ

86%が出来ていると評価している。

16. 支援終了時の振り返り

86%が出来ていると評価している。

17. 記録の徹底、支援の検証・改善

86%が出来ていると評価している。

18. 定期的なモニタリングによる個別支援計画の見直し

57%が出来ていると評価している。コロナ渦において面談の時間調整が難しく、紙面にて状況を共有するご家庭がほとんどであった。

19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせた支援

86%が出来ていると評価している。

D 関係機関と保護者との連携

20. 相談支援のサービス担当会議への参画

86%が適切な人材が参画していると評価している。

21. 学校との情報共有、連絡調整

86%が適切に行っていると評価している。

22. 医療的ケアの子どもの受け入れ、主治医との連携体制

71%が適切にできていると評価している。

23. 就学前に利用していた幼稚園や保育園など、発達支援事業所との情報共有と相互理解

57%が出来ていると評価している。

24. 事業所を移行するときの情報提供

86%が出来ていると評価している。

25. 専門機関との連携や助言・研修の活用

71%が出来ていると評価している。

26. 地域自立支援協議会等への参加

100%が出来ていると評価している。

27. 利用者に関する保護者との共通理解

100%が出来ていると評価している。

28.ペアレントトレーニング等の保護者支援

71%が出来ていると評価している。

10. 苦情に対する対応

84%が適切に対応しているという評価である一方で14%は詳しくわからないとの評価であった。

11. 意思疎通や情報伝達のための配慮

84%適切であるとの評価を得た。

12. 情報発信について

90%が適切であると評価している。

13. 個人情報について

90%は十分に注意しているという評価であった。

D 非常対応

14. 緊急時対応、防犯、感染症対応について、90%が適切に対応していると評価している。

15. 非常災害の訓練

88%が適切に行われていると評価している。

E 満足度

16. 通所を楽しみにしている

評価は80%であった。

17. 支援への満足

評価は84%であった。

E 保護者への説明責任

29. 運営規定、支援内容、利用者負担額の説明

71%が丁寧な説明を行っているという評価がある。

30. 保護者からの相談対応の支援

100%が出来ているという評価している。

31. 保護者同士の連携の支援

85%の評価に留まった。保護者同士の情報交換の場としては必要だと考えるも、コロナ渦において開催が厳しい状況であった。

事業所内での分析

【共通点】

環境面：職員の専門性、配置人数については、職員も保護者も適切であると評価していた。

児童への支援内容：活動プログラムの工夫はされている。個別支援計画作成では、客観的に作成され分かりやすく説明されている。

事業所からの情報発信：前年度よりも評価が上がっており、ICTを活用した連絡帳を導入したことで、ご家族様へ情報が伝わりやすくなったことが考えられる。また、保護者様を対象にした研修や、親子イベントも、コロナ禍が落ち着くにつれて再開できたことで、評価が上がっていると考えられる。

非常対応：過半数が適切に情報共有出来ているという評価している。プログラム内容に、防災訓練を積極的に取り入れたこと、またその内容の情報発信をしたことも保護者にご理解いただいた理由と考えられる。

【相違点】

環境面：預かりの支援が中心のため、保護者とスタッフ間、または保護者間でも情報を知っているかどうかで、評価に違いが出ていると考えられる。

児童への支援内容：個別支援や学習支援など、一対一の支援では高評価を得やすいものの、集団の支援になると、支援内容が保護者様によっては把握しにくい様子が見受けられる。

分析・検討してみても…

事業所の強み

- ・職員に専門性があり（有資格者多数在籍）、適切なアセスメントを行い客観的に分析し計画作成している。
- ・医療、学校、家庭や他機関（療育センター、児童相談所、区行政など）との連携が実践的に行なっている。
- ・保育所等訪問支援があり、学校での問題行動にも対応できる。

事業所の改善点

- ・主に集団支援について、適宜保護者様に内容をフィードバックするとともに、より丁寧に学校や家庭での様子を聞きとることが必要である。
- ・情報共有については、ICTの活用が難しいご家庭と、できている家庭との差が見受けられるため、こちらからも声掛けを行い、平等に情報が伝わるように工夫を行っていく。

事業所の改善への取り組み

環境面：

- ① 集団の人数により、部屋割りをを行い、子どもたちが落ち着いた環境で取り組めるように工夫する。

支援内容：

- ① 年間計画を立て、活動プログラムの工夫を図る。
- ② 個別支援計画については、オンライン面談等の、コロナ禍でも対応可能な情報共有の仕方を提案していく。
- ③ 保護者との相談については、担当者だけでなく責任者も把握し、ともに臨んでいく。

情報発信：

- ① 保護者会、談話会、交流会を定期的に開始する計画を立案実施する。実施した内容についても、保護者様にフィードバックしていく。

非常対応：

- ① 緊急時対応マニュアル、防犯、感染症対応マニュアル策定など、連絡帳や広報誌を通し、都度保護者への説明や周知を徹底する。
- ② 災害時の訓練会を定期的実施していく。

その他：

スタッフ間との連携を密に図り、チーム一丸となって支援に当たれるように情報共有等を工夫していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

コロナ禍でこれまで行っていいイベントや面談の実施が難しくなったことで、保護者様との関係性を構築しにくくなっていたことが、今回の評価を通し、伺うことができました。

今後はより一層、保護者様への情報共有などを丁寧に行っていきたいと思います。

事業所名 ACO 放課後等デイサービスふれいす

担当者 中村 三奈美